



第一回

こがねい

# 春の能

平成三十一年 三月十六日(土)

午後五時開演 (午後四時開場)

会場 小金井宮地楽器ホール

JR中央線 武蔵小金井駅南口徒歩一分



## 能 羽衣

川口 晃平

狂言

柿山伏

山本 則重  
山本 則秀

仕舞

屋島 遊行柳

津村禮次郎  
梅若 実

[チケット 平成31年1月5日発売]

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

1階指定SS席 5000円 1階指定S席 4500円

2階自由A席 3500円 学生席※ 2000円

(※当日受付にて学生証を拝見いたします。)



[お問い合わせ]

こがねい春の能実行委員会

tel 070-6422-1532

e-mail [harunonoh@gmail.com](mailto:harunonoh@gmail.com)

主催 こがねい春の能実行委員会 後援 小金井市

平成三十一年 三月十六日(土) 午後5時開演

会場 小金井宮地楽器ホール

番組

解説

川口 晃平

仕舞 屋島

遊行柳

津村禮次郎  
梅若 実

狂言 柿山伏

山伏 山本 則重  
柿主 山本 則秀

能 羽衣

天人 川口 晃平  
白竜 御厨 誠吾

(休憩 十五分)

笛 熊本俊太郎  
小鼓 鶴澤洋太郎  
大鼓 亀井 広忠  
太鼓 林 雄一郎

後見 津村禮次郎  
山中 近晶

地頭 梅若 実  
地謡 梅若 紀彰  
山崎 正道  
松山 隆之  
谷本 健吾  
小田切亮磨

(午後七時頃終演予定)

こがねい春の能 川口晃平

武蔵小金井は歌川広重の「富士三十六景」にも玉川上水の桜が描かれるなど、江戸の昔より景勝の地でした。また、小金井の名の通り、多摩川段丘のはけの下より湧く豊富な地下水は、遠く縄文時代より人々の暮らしを潤してきました。

私はこの小金井に生まれ育ち、時代が流れても変わらないものがあることを教わり、その何かに惹かれるような人間になった気がいたします。そして私が大学時代に出会い一生の仕事と決めた能は、正に古代から未来まで変わらぬ人の心、自然や神々の世界を題材にして、遙かな年月受け継がれてきた伝統芸能です。

水清く花咲く小金井の春ごとに、能を一番ずつ大切に演じていければと「こがねい春の能」を立ち上げました。

当日は人間国宝・四世梅若実先生、また、小金井にお住まいの能楽の第一人者津村禮次郎先生にお力添えをいただき舞台を勤めさせていただきます。

演能に先立ちまして、初心者の方にも分かりやすく楽しんでいただけますよう、解説をいたします。



川口 晃平 シテ方親世流能楽師。梅若会所属。小金井市出身。昭和五十一年生まれ。漫画家かわぐちかいじの長男。慶應義塾大学在学中に能に魅せられ能の道を志す。大学卒業後の平成十三年、五十六世梅若六郎(現・四世梅若実)に入門、復曲能「降魔」にて初舞台。平成十九年独立。今までに「翁」の千歳、「石橋」「狸々乱」「道成寺」を抜く。緑龍会、三人の会を主催。



四世梅若 実 シテ方親世流梅若六郎家当主。日本藝術院会員。重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)。昭和二十三年五十五世梅若六郎の嫡男として生まれる。曾祖父は明治三名人の一人、初世梅若実。数々の秘曲、および能楽の最高峰三老女を数回演じる。海外公演も多数主催し、世界への能の普及と国際文化交流につとめる。復曲や新作能の演出と上演、異分野とのコラボレーションにも携わり、「平成能」と呼べるものを創造し今日を生きる古典芸術としての能を支えている。



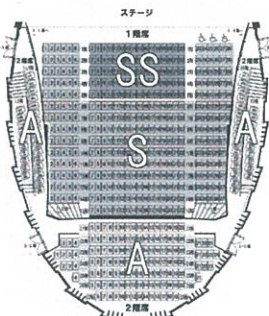
津村禮次郎 シテ方親世流能楽師。緑泉会代表。重要無形文化財(能楽総合)保持者。昭和十七年北九州市生まれ。一橋大学在学中に女流能楽師の草分け津村紀三子に師事、その後先代親世喜之に師事。定例公演「緑泉会例会」の他、小金井新能は今年四十回を迎え、佐渡での活動も三十数年継続。古典能、ダンスや演劇などのコラボレーション、創作活動、海外公演も多数行。著作に「能がわかる1000のキーワード」「能狂言図典」(一部執筆)、写真集「舞幻」。

能「羽衣」 あらすじ

春の朝、三保の松原に住む漁師・白龍(はくりょう)は漁を終え浜に上がると、松の枝に掛かった不思議な美しい衣を見つけます。家宝にするため持ち帰ろうとした白龍に不思議な女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。女は月の世界から降り立った天人でした。白龍ははじめ聞き入れず返さうとしませんでした。白龍は天に帰れないと悲しむ天人の姿に心を動かされ、ひとたびは天人の舞を見せてもらおうと、衣を返すことにします。ところが、衣を着ないと舞うことができないと言う天人を、舞を見せぬまま天に帰ってしまったのではないかと訝しみます。しかし、天人の「いや疑いは人間にあり。天に偽りなきものを」という言葉に恥じ入った白龍は衣を返します。

羽衣を着た天人は、月宮の様子を表す舞いなどを見せ、さらには春の三保の松原を賛美しながら舞い続けます。この時の天人の見せた舞が、雅楽に伝わる東遊の駿河舞でした。やがて天人は彼方の富士山より高く舞い上がり、満月のかかる夜空の霞にまぎれて消えていきました。

小金井 宮地楽器ホール 東京都小金井市本町6の14の45



【お問い合わせ】  
こがねい春の能実行委員会  
tel 070-6422-1532  
e-mail harunonoh@gmail.com



【チケット 平成31年1月5日発売】  
e+ (イープラス) <http://eplus.jp>  
1階指定SS席 5000円  
1階指定S席 4500円  
2階自由A席 3500円  
学生席※ 2000円  
※当日受付にて学生証を拝見いたします。